

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 1 区分

【発行日】平成 27 年 3 月 19 日 (2015.3.19)

【公表番号】特表 2014-523514 (P2014-523514A)

【公表日】平成 26 年 9 月 11 日 (2014.9.11)

【年通号数】公開・登録公報 2014-049

【出願番号】特願 2013-555948 (P2013-555948)

【国際特許分類】

G 0 1 N 1/34 (2006.01)

G 0 1 N 1/28 (2006.01)

G 0 1 N 1/30 (2006.01)

【F I】

G 0 1 N 1/34

G 0 1 N 1/28 J

G 0 1 N 1/28 F

G 0 1 N 1/30

【手続補正書】

【提出日】平成 27 年 1 月 30 日 (2015.1.30)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

包埋剤の少なくとも一部を包埋生体試料から除去する方法であって：

包埋生体試料をその表面上に有する少なくとも 1 つの支持体を前処置容器中に配置すること、

前記前処置容器に層を形成する少なくとも 1 つの試薬を添加すること、試薬形成層がキャリア組成物の上に形成されるように、および前記少なくとも 1 つの試薬形成層が前記包埋生体試料の少なくとも一部に接触するような量で、前記キャリア組成物を前記前処置容器に添加すること、

を含む、方法。

【請求項 2】

少なくとも 1 つの支持体を前記前処置容器中に配置した後で、前記前処置容器に前記キャリア組成物の表面上へ前記層を形成する少なくとも 1 つの試薬を添加する前に、前記キャリア組成物が前記前処置容器に添加され、さらに前記キャリア組成物が前記包埋生体試料と接触しない、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

さらに前記少なくとも 1 つの試薬形成層が前記包埋生体試料全体に接触するまで前記キャリア組成物の体積が増加される、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 4】

さらに前記 2 相系が前記生体試料と接触している場合には、絶えず動いている、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 5】

前記 2 相系は、前記 2 相系の体積が増加すると上方向に、前記 2 相系の体積が減少すると下方向に移動する、請求項 4 に記載の方法。

【請求項 6】

前記試薬形成層の少なくとも一部が前記前処置容器からオーバーフローするまで前記前処置容器中の前記キャリア組成物の体積を増加させることによって、前記試薬形成層の少なくとも一部を除去することをさらに含む、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 7】

前記試薬形成層が前記包埋生体試料の少なくとも一部と 2 度目に接触するように、前記キャリア組成物の少なくとも一部を前記前処置容器から除去することをさらに含む、請求項 1 から 6 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 8】

追加のキャリア組成物を前記前処置容器に添加して、したがって前記試薬形成層を生体試料の少なくとも一部に 3 度目に接触させて、次に前記キャリア組成物の少なくとも一部を除去して、これにより前記試薬形成層の少なくとも一部を前記包埋生体試料の少なくとも一部と 4 度目に接触させることをさらに含む、請求項 1 から 6 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 9】

前記試薬形成層が前記包埋材の融点よりも低い温度である、請求項 1 から 4 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 10】

包埋生体試料の前処置方法であって、

包埋生体試料をその表面上に有する少なくとも 1 つの支持体を前処置容器中に配置すること、

キャリア組成物であって、前記包埋生体試料に接触しない前記キャリア組成物を前記前処置容器に添加すること、

前記前処置容器に前記キャリア組成物の表面上へ層を形成する少なくとも 1 つの試薬を添加すること、

少なくとも 1 つの試薬形成層が前記包埋生体試料の少なくとも一部に接触するまで、前記前処置容器中のキャリア組成物の量を増加させること、

試薬形成層の少なくとも一部が前記前処置容器からオーバーフローするまで前記前処置容器中の前記キャリア組成物の体積を増加させることによって、前記試薬形成層の少なくとも一部を除去すること、

前記支持体を前記前処置容器から除去すること、

前記キャリア組成物が標的賦活化緩衝剤でない場合、前記キャリア組成物を前記前処置容器から排出させて、前記前処置容器に標的賦活化緩衝剤を充填すること、

前記標的賦活化緩衝剤を所望の温度であって、加熱標的賦活化に適切な温度まで加熱すること、

前記支持体を前記前処置容器中に配置すること、

前記生体試料を所望のプロトコルに従う時間間隔にわたってインキュベートすることによる包埋生体試料からの包埋剤の除去および加熱標的賦活化を含む、前処置方法。

【請求項 11】

前記試薬形成層が前記包埋生体試料の少なくとも一部と 2 度目に接触するように、オーバーフローの前に前記キャリア組成物の少なくとも一部を前記前処置容器から除去することをさらに含む、請求項 10 に記載の前処置方法。

【請求項 12】

前記キャリア組成物が液化した前記包埋剤を除去することができ、前記試薬形成層と非混和性である水性緩衝剤溶液である、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 13】

前記キャリア組成物および前記標的賦活化緩衝剤が同じである、請求項 10 または 11 に記載の方法。

【請求項 14】

前記キャリア組成物および前記標的賦活化緩衝剤が異なる、請求項 10 または 11 に記載の方法。

## 【請求項 15】

包埋生体試料の自動化前処置のための装置であって、  
支持体ホルダー、　ならびに  
オーバーフローチャネルおよびオーバーフロートレイン、液体を容器に底部を通じて供給する入口、温度を測定するためのセンサを備える前処置容器  
を備える装置。

## 【請求項 16】

双方向ポートをさらに備える、請求項 15 に記載の装置。

## 【請求項 17】

空気を前記容器内に強制的に送り込むファンをさらに備える、請求項 15 または 16 に記載の装置。

## 【請求項 18】

加熱要素をさらに備える、請求項 16 に記載の装置。

## 【請求項 19】

分散グリッドを装備した開放内部フレームをさらに備える、請求項 15 から 18 のいずれか一項に記載の装置。

## 【請求項 20】

前記試料ホルダーがラックアームを装備したスライドラックである、請求項 15 から 19 のいずれか一項に記載の装置。

## 【請求項 21】

前記スライドラックが前記内部フレーム内側に配置され、さらに前記前処置容器が、前記容器および前記内部フレーム内で前記 スライドラック が適正な配置となるように誘導するラックガイドを装備する、請求項 20 に記載の装置。

## 【請求項 22】

2相系の少なくとも一部を前記前処置容器の上部から除去することができる水平移動バーをさらに備える、請求項 15 から 21 のいずれか一項に記載の装置。